

平成 16 年度日本写真測量学会関西支部講習会(5月28日(金))開催報告

## リモートセンシング講習会 「リモートセンシング 画像解析ソフト MultiSpec (フリーウェア) を使った実習」 開催報告

日本写真測量学会関西支部

日本写真測量学会関西支部では、去る5月28日大阪府立勤労センター(エルおおさか)にて、ビクトリア大学地理学科教授の飯坂譲二先生を講師としてお招きし、フリーウェアのリモートセンシング画像処理ソフト“MultiSpec”を使った講習会を開催した。

実習に用いられた画像処理ソフトMultiSpecは、デジタル解析の創世記からこの分野に寄与している米国のパデュー大学がNASAや他の機関の支援を受けて開発し、PCやMacで利用できる強力なソフトウェアで、リモートセンシング普及のためにフリーウェアとしてWebからダウンロードできるよう公開されている。[\(http://dynamo.ecn.purdue.edu/~biehl/MultiSpec/\)](http://dynamo.ecn.purdue.edu/~biehl/MultiSpec/)

講師である飯坂先生は、わが国におけるリモートセンシング発展のパイオニアであり、これまで高価で触れる機会が少なかったリモートセンシング画像処理ソフトをごく一般の方々にも使ってもらおうという目的で、本ソフトウェアのマニュアルおよび解説を日本語訳され、日本国内において普及活動を行なっている。したがって本講習会においても、リモートセンシングの経験者から、興味のある方や初心者まで、幅広く、参加対象にした。



講習会参加者数は、予定していた受講定員を超える57名(実行委員5名含む)が集った。内訳については、研究・教育関係が6割強を占め、約4割が民間企業からの参加だった。自治体からの参加者がなかったことが、少々残念であった。教育関係の参加者には、リモートセンシングの講義・実習に是非MultiSpecを利用したい、という目的の方も多数いた。



講習会当日、画像処理ソフト“MultiSpec”、サンプル画像データ、日本語解説マニュアルが格納されたCDROM、および日本語解説マニュアル・講習会資料を印刷製本したものを、参加者に配布した。講習会は、下記の通り行なわれた。

- 9:40～12:00 “MultiSpec”の基本操作と簡単な解析事例
- 13:00～14:30 土地被覆分類解析の実際
- 14:50～16:30 植生指標・修正植生指標の算定手順

午前の部前半は、講習会資料とは別に、リモートセンシング技術の歴史や基礎知識から、さまざま衛星センサが観測した興味深い解析事例を数多くご紹介いただいた。15分休憩の間に、プログラムとサンプル画像データを各自 PC にインストールし、午前の部後半は、MultiSpe を用いて、ASTER ならびに LANDSAT 画像の各バンドデータの読み込み、およびカラー合成、特定領域を指定した画像の切り出しを行なった。大変操作しやすく、かつ理解しやすいプログラム構成で、参加者全員が問題なく実習できた。



午後の部から少しずつ内容が高度になり、土地被覆クラスの任意領域のヒストグラム作成、単バンド・マルチバンドを使ったクラスターリング（教師なし分類）、クラスリング結果の評価を行なった。午後の部後半は、最もよく利用される植生指数の算定方法を行なった。実習中、飯坂先生は、随時質問を受け付け、必要があれば繰り返し説明をいただいた。

なお、講習会を通して、先生が何度か言われていた言葉が大変印象に残る。

「ご自宅でもリモセン画像処理を。」

「このソフトを、参加者各自が 10 人に広めてください。」

どこでも手軽に衛星画像を処理・解析できる画期的なフリーソフトを、もっともっと多くの方に知ってもらい触れてもらい使ってもらいたい、という先生の熱意が、参加者全員に伝わったことは間違いないだろう。

最後に、講習会用サンプルとして近畿周辺の衛星画像データを手配いただいた（株）パスコ GIS 総合研究所の平田更一氏に、深くお礼を申し上げる。